

テーマ 日本被団協のノーベル平和賞受賞  
について考えたこと

題名 未来へ繋ぐ

鹿沼市立北押原中学校 (氏名) 大橋 愛心



私は2024年のノーベル平和賞に日本被団協が選ばれた事を知りました。「日本被団協」とは、原子爆弾の被害を受けた人々、いわゆる「被爆者」の方々が中心となって作った団体です。核兵器のない世界を目指すとともに、平和な世界の実現に向けて活動を行っています。私は「戦争」や「原爆」に関するものを学校の授業や教科書を通して学んで来ました。しかし、実際に声をあげ続けてきた人々の努力については、あまり触れる機会がありませんでした。

けれども、被団協の活動を知ること、「今もなお、過去の悲劇を伝え続けている人がある。」と気づかされました。私はこの活動がノーベル平和賞に受賞されたことで、世界中に核兵器廃絶への関心が高まり、人々の意識を変える大きなきっかけになると考えます。被爆者の方々の訴えは国や言葉を超え、多くの人々の心に響くはずです。

これからの時代を生きる私たちの若い世代が、被団協の願いや活動を知り、「平和のバトン」を繋いでいくことが大切だと思います。

戦後80周年記念平和集会を機にノーベル平和賞について考える機会を得られたことに心から感謝しています。